

### 第3回 グリーンバレー神室検討委員会議事録概要

日 時：令和4年2月3日(木) 午後2時～  
場 所：金山町役場大会議室 進行：関係長  
欠 席：近岡 伸（(株)近岡林産専務取締役）  
大山 順子（有屋地域婦人会）  
柿崎 尚弥（金山町森林組合青年部）

#### 1 開 会

#### 2 挨拶

- ・委員長あいさつ
- ・町長あいさつ

#### 3 協 議 （座長：斉藤委員長）

##### （1）第2回検討委員会での宿題について

- ・ふるさと納税について

斉藤委員長

GV 神室を継続するための費用捻出を行うためふるさと納税の活用について説明

◎返礼品の充実→赤字を解消するほどの返礼品の案を見つけるのが難しい

◎企業版ふるさと納税→町との関係性が近い企業がいなければ難しい

結論としては現状ふるさと納税を活用した費用捻出は難しいと考える

- ・指定管理者の公募について

庄司総合政策課長

指定管理者制度を平成17年度から施行

平成18年度からGV神室振興公社を指定管理者として5年ごとの協定を結んでいる。

ホテル、レストラン、ホットハウスの指定管理者となっている。

議会議決を経た上で協定を締結しており、現行のものでR3～R7までの協定を締結

H9ホテル営業開始時に公社を設立し、出資割合は町51%、JR49%

受託業者又は指定管理者として20年以上の運営管理実績がある。

開業当初、町には宿泊及びレストラン運営のノウハウがない状況であり、JRに多大なる協力いただいた。また、今後もJRの協力を大いに期待している。

上記事由からGV神室振興公社において特別な事由がない限り、原則としては協定期間内は継続すべきものである。次回更新時には公募も考えられる。

井上委員

20年の実績が、今の現状を生んでいるわけで、ここにメスを入れないと新たな展望が見えないのではないかと。公募してアイデアとそれを実現できる企業をしっかりと選ぶことが、

赤字体質を改善するために必要ではないかという提案である。

公社との契約の5年間の1年目。存続危機の今が特別な事由になるのではないかと思うし、この検討委員会で町と公社に提言をすることはできないか。公社に引き続き任せるといふことでは大きな変化はないのではないかと思う。

佐藤町長

井上先生の見解も一部もつともであると思う。第三セクターとして5年の協定がある。

JR 東日本の事業部長、会計課長にも取締役会での説明から現状が厳しい状況だとは認識していただいていると思う。ただ、JR側の関わり方の変化もあり得ると考えられるが、これから公社をどうしようという話までにはなっていない。もちろん今回の検討委員会で検討していることや、3つの案を出していることも伝えている。JRとしては注視している状況と言え、JR側との関係をいきなり解消するという事は難しい現状。

(2) グリーンバレー神室の今後の方針についての意見交換

齊藤委員長：欠席の委員の方の見解を事務局から紹介を。

中村補佐：近岡委員、大山委員の見解を紹介

近岡委員

基本的な考えとして温泉施設・スキー場をあきらめてもホテルを継続すべき。

温泉については、可能ならあまり費用をかけないで修繕するとか、ホテル内に大浴場をつくるなどできないか。

スキー場については、断念してはどうか。ブームも過ぎており収益改善にはつながらないのではないか。

ホテルについては、継続のコンセプトとして、唯一の宿泊施設として重要。金山でしかできない魅力を訴求し、他の成功例とかは気にせず、長続きする魅力を見つけていくべき。既存のものを活用して新たな投資は控えるべきと思う。

食事の魅力は必須。ヨーロッパでは小さい田舎宿でもレストランは非常におしゃれな雰囲気である。レストランの雰囲気や地元の料理などに力を入れていく必要がある。毎日訪れたくなるような、素朴で清潔、雰囲気のいい場所として、高級なものは不要なので、そういう場に。地元の料理の魅力を出していければ。

金山の既存のものを活用した体験型の旅行への取組やホテルを起点とした体験型のツアーの創出が必要。

大山委員

議員と女性の語る会でも様々な意見が出された。グリーンバレーは観光の目玉である。温泉を楽しみにしている高齢者が多い。ホテルは帰省した親戚等が宿泊するために必要。

現在の施設を改修したり規模縮小したりしながらできるだけ維持してほしい。

町長はじめ町民皆が一丸となって、住みよい、希望の持てる町にし、若者が定着し人口減少を食い止められるように頑張っていく必要がある。

個人的には、B'案に近く、スキー場は民間へ、温泉は改修を実施して継続し、他の施設も継続するという考えに近い。井上先生の、他の事業者での運営も賛成である。

#### 齊藤委員長

私自身、金山を訪れたのは明安・有屋小学校の廃校活用の検討委員会に参加したのが初めて。金山町を訪れて感じたのは町民の皆さんの金山への深い愛情。私自身も町外に住んでいる金山のファンである。委員の皆様のお考えはひとつではないか。金山町を子・孫の世代まで引き継いでいきたいということと、住民の皆様がこれからも住んでいきたいと思うようなまちづくりをしていきたいということは方法はともあれ一致しているのではないかと思う。

ここからは私案ではありますが、町の財政を健全化して、サービスを維持していくことが必須ではないか。財政再生団体になることは絶対に避けねばならないと思う。全国的にもマイナスイメージを持たれてしまうと、住民自治も成り立たなくなる非常に危険な状態になってしまう恐れがある。グリーンバレーの事業を継続すべきとは私を含め皆が思うところではあるが、コストが膨大にかかっていることから、即効性がある増収増益策がなければ、事業を縮小するしかないのではないか。これまでの意見で多くあった宿泊ニーズや高規格道路の開通を考えると、ホテルのみを継続するのがいいと思う。ただ、4年で収支が改善しなければ、残念ではあるが廃止するのはどうか。町民一丸となって、宿泊者を増やす取り組みをしていただければと思う。

温泉施設については、利用料が安いというお話を聞いているが、人口減少なども考えると料金を引き上げしても長期的には収支は改善しないのではないかと思う。スキー場についても同様。

グリーンバレーは町外に誇れる施設なのは間違いないが、維持するには多額の費用がかかっており、温泉やスキー場を継続するために、医療費や福祉、教育費を削減してしまうと、町民の生活に大きく影響が出てしまう。すでに事業見直しをやっているということなので、今残っている事業は必要な事業ということではないか。他の事業を削ることができないのであれば、グリーンバレーを縮小するしかないのではないか。

一案として、隣の真室川町と協定を結ぶなどして、ホットハウスを廃止した上で梅里園を利用した場合に3年程度補助をすとか、全てのサービスを自前で提供するのではなく共同利用などを検討してはどうか。

わたしの私案に対してでも、これまでの議論を踏まえてでもいいですので、各委員からご意見をいただきたい。

#### 矢口議長

齊藤委員長の私案には思いは同じである。ふるさと納税について金山町は R2 県内 32 位。最上管内の自治体は金山町より寄付額が多い。なんとか即効性があり収益が高いものと思って前回質問した。国の方針で返礼品は寄付額の 30%以内。宮崎県の某自治体では返礼品の金額を大幅に超えて実施していたため 2 年間の除外処分とされた。

財源としてのふるさと納税をしっかり機能させるべきと思う。令和 4 年度から委託することとなったが目標 1 億円くらいとのことだが、もっと望めないかと個人的に思ったところ。舟形町では現在 4 億 9 千万円程度。町に残るのは諸経費を除くと寄付額の 40% くらいだと思う。ふるさと納税で子育て施策を充実している自治体には若い世帯が移住しているという報道もあった。

#### 庄司政策課長

ふるさと納税は昨年度 7000 万円ほどいただいたが、半分は返礼品と事務経費となり半分が残る財源となる。これまでも子育て支援や教育へ活用しており、今後も中学校改修などにも充てていく予定。さらに上乘せで 2 億や 3 億と増えていけば、神室へも財源として活用することも考えられるかもしれないが、確定したものではない。

金山町では寄付額が伸び悩んでいる。その大きな要因の一つとしては直営でふるさと納税業務をしており魅力的な発信等などに、なかなか手が回っていなかった。そこで R4 からは完全民営化にする。最上管内でのふるさと納税の需要は米が一番多く、価格競争が激しくなってきた引き下げ合戦となり返礼品納入者の収入が減っているものと思う。金山町では米と最近伸びてきているのが薪である。

#### 柴田議員

今日は委員長である齊藤先生から御意見をいただき、全体的には同感できるものである。金山町を子どもや孫世代まで、子々孫々まで繋いでいくということはみんな共通認識だと思う。

ホテルに関しては R7 まで公社と指定管理の協定を結んだ。現在 JR 側では現状についてどのように考えを持っているのか気になるところ。残り 4 年間やっていただけなのか。JR が撤退した場合、町単独での運営は難しいだろう。JR の考えによっては指定管理者の公募も検討しないといけない。ホテルはなくしてはいけなし、3、4 年は様子を見た方がいいと思う。

神室スキー場は民間でやっていたのであればそちらが好ましい。温泉がないとホテルの客も減少してくるだろう。温泉の利用状況を自分なりに調べてみた。源泉は 3、4 年は維持できるのではないか。何億円もかかる大規模改修は避けなければならない。

## 井上委員

この検討委員会で何を決めるかが大事。具体的な再建案を委員ごとにバラバラ出しても意味がない。何を続けて、何を止めるのか。続ける場合何年間トライするのか。運営主体の選び方などを決める必要がある。運営主体を公募する場合、JR との関係を要件に踏まえて公募する方法もある。例えば赤倉スキー場では、民間にどのように運営していくのかをコンペし、営業部門だけを丸徳ふるせに委託している実例もある。本委員会で何を決めるのかははっきりしてほしい。

## 齊藤委員長

指定管理者制度で自治体側から業務不履行で指定管理契約を解除することはありえる。ただ一般的に、町の都合での契約解除は契約相手方との違約金が発生する場合がある運営内容についてのコンペ。本来の指定管理者制度自体が、民間の力を借り、内容充実とコストを抑え、よりよいサービスを提供するために、サービス内容については民間に任せるもの。

町側で運営内容についてコンペを実施し公社にその内容を実施させるのは制度的にありえないのではないかと。町と公社の指定管理の協定内容についてはどうか。

## 事務局中村

指定管理者制度の内容として、公社に運営をお任せするものである。公社側でコンペを実施して、その結果について取り組みたいと公社から町に提案がある分にはありえるが、町側から当初認めた計画と違うことを実施するよう介入するのは、制度の趣旨からしてもいかななものか。

## 齊藤委員長

付け加えると、公社が当初の計画と違う内容で事業を実施することで増収増益が見込めることを町に提案し町の同意をもらう必要がある。町側から事業内容の変更を求める場合は指定管理料が変わってくるなどあるのではないかと。協定を締結しているので、その両者が認めれば、井上委員の提案のようなことも可能ではある。公社は会社組織なので、JR 含む取締役会の了解がなければいけないので町だけの意向で進めることはできない。

## 町長

JR 側と1月中旬に面会をした。町のスタンスの確認。さまざまな検討をしている現状を踏まえて。

検討委員会では町で具体的な案を示した上で、議論いただき、よりベターな案を決めたい。選択した上で何年くらい継続事業にトライするかをある程度定めてい

ただければと思っている。

#### 齊藤委員長

補助金は公益上必要なものではないから。判例では一定程度認められているものの赤字団体へ補助金を出すことは、納税者の思いを考えるとなかなか難しいのではないか。

#### 早坂副議長

先生も心配している通り、町全体の財政健全化に向けての事業見直しである。再建団体にはならないようにしたいというのが一番の目標であり、そのために中央公民館建設の取り止め、診療所の無床化などすべては繋がっている。

GV 一帯の中で、どれを残しどれをある程度存続させ、乗り切っていくかということ。財政再建団体になっては、町民の暮らしが脅かされることから安易な判断ができない。神室の経営もできるだけ長くとは思いますが、経営存続の可否については勇気と決断が求められている。財政の資料を汲み取って考える必要がある。

神室は人的に作ったりゾートなので、どこかでその皺寄せの責任をとらなければならない。多少の苦情はあると思うが、決断をしなければならない。町財政が赤字になる前に決めなければならない。判断だけは間違ってはならない。町民を苦しめることになってしまう。

#### 中村委員

GV 神室について、このままではダメだというのは共通の認識であると思う。GV 神室は、当初町民の福祉向上を目的に、その後町民と町外の方との交流が始まり、交流人口増加、地方創生等の流れで観光化してきたところで人口減少の問題が大きくなってきた。

これまで、「やる」か「やめる」かの議論しかなかった気がする。GV 神室の今後の方向性のなかで廃止以外の面での検討もしなければならないのではないか。スキー場として使うのではなく別の用途での使用の模索やホテルの業務改善や、違う客層へのアプローチなど工夫が必要。現在まちづくり町民アンケートを実施している。

10 年先はかなり不安があり、おおよその方はできれば廃止しようという意見が多いと予想している。そのなかで自由記載部分に書いてくれる人の意見を大切に。町民アンケートの結果を開示して頂けるのであれば、検討会で更なる議論の材料とできれば。

#### 寒河江議員

設立当時は当時、今は今の状況にあったやり方でやっていかなければならない。井上委員が出してくれた案はすごく良かった。GV 神室が良くなる方向へ向けて、共同して取り組んでいければ。

例えばホテルだけになったとしても周辺の景観面にも配慮が必要。公社としてホテルやレストランをやっていくための努力が必要。町民からの意見をひとつ。スキー場をやっている時間帯はホテルのレストランを延長して開けてもらうよう努力してほしい（お昼の営業が13:30までとなっていることから）。

施設の修繕料も気になっている。

スキーのクロカンについても、どこでやるのかとかそういったことも含めて検討していかないといけない。

#### 星川委員

観光協会という立場からお話させていただく。金山町の観光全体を考えるとシェーナスを中心としたGV神室は必要だと考える。経費等がかかっている現状で、最善の決断をしていければ。金山は景観政策を推進してきた。ホテルを残していただくとして、ホテルから見た景観が大事。スキー場をやめたとしても藪になり景色が台無しにならないような管理は必要。

温泉に代え大浴場にするなど、予算を厳しく精査し、温泉の規模を縮小しての立て替えや修繕、源泉の再掘削などでホテルを生まれ変わらせていただくとありがたいと観光協会の立場としてはお願いしたい。

#### 渡部委員

神室スキー場には小さい頃いったが年を重ねるにつれいなくなってきた。金山町も少子高齢化が進んでいる現状。GV神室がなくなると雇用面等の問題があるだろうが、福祉、医療、教育や障害者福祉などの面を圧迫するような財政状態にはならないようにしてもらいたい。ただ、ホテルだけは残してほしい。温泉が難しい場合は銭湯などにはできないか。必要最低限の費用で考慮し、町で検討してほしい。

#### 矢口委員

ホテルだけの継続ではなく温泉もしてほしい。温泉の利用者は年間で5万人にもなる。温泉をもっと町全体で利用すればいいのではないか。リフトも冬だけではなく夏の利用もできないか。また人を呼ぶイベントの開催でなんとか継続してもらいたい。クロスカントリースキーも残してもらいたい。

#### 須賀委員

斉藤先生の意見を読んでみて納得できる内容。

#### 矢作委員

ホテルには風呂は必要だと思う。またホテルでのイベントや金山の山菜料理。いわな

の掴み取りや子供たちが楽しめる雰囲気づくり。お客さんが増えるような取り組みを。冬場は花火など小さいことでも人を誘客する工夫を。

#### 岸委員

残したいと思うが、今年もコロナの影響が多い中で大きな赤字になっているだろう。現在の状況から、指定管理者がこのままでは、好転することはないのではないか。財政を一番に考えないといけないだろうし、どうしたら残せるのかと改めて議論することが必要。

#### 齊藤委員長

ふるさと納税での増収増益策がないかと矢口議長からあったので、新しいアイデアとか周りの市町村の状況などまとめていただければ。

財政関係の状況の、掛け値なしのギリギリのところ、実情について出していただければ失くすという議論の前に、今の状況でなんとかなるのかという話もあった。

次の委員会の議論に向けて、どのように整理するかわたしと町の方とで話してみたいと思う。

多様な意見をいただいているので、この場でこの案がいいと申し上げにくいと思う。何かアンケートなどで意見をいただくのはどうか。

#### 事務局中村

皆さんに第4回の検討会までにアンケートに答えていただき、次回の議論協議の材料として、結論に向かっていたいただければ。

#### 齊藤委員長

皆様の率直な思いを回答いただければ。グリーンバレーの方向性を決めるのを先延ばしにすると、その間もコストがかかってくるので、病気に例えれば早く治療するのが必要なわけで、早い段階で方向性を決められればと思う。

#### 西塚支配人

レストランの営業時間について。雪まつりの次の日から13時30分から14時までに少し延長させていただいた。夕飯の準備でなかなか難しい状況ではあるが、イベント等がある場合は改善していきたい。また、来年度は各月で遊学の森と共同で木育食育のイベントを行なっていきたい。

#### 庄司政策課長

まちづくりアンケートは回収率が非常に高く75%、総数3,100程度になる予定。



精度が高い町民の意見をまとめることができると思う。

今後の財政状況ははなり厳しくなり、財政としては町の財政を赤字には決してしてはならない。長引くコロナの状況、国の財政状況、人口減少、高齢化等が関係してくる。また、国の施策として公共施設の数の縮小、集約廃止が求められている。今後、今ある全ての施設を残すのは現実的ではない。

金山町は町中心部で景観関連施設も多い。施設の維持管理にかなりの費用がかかっている。財政健全化に向けて利用者がいない公共施設は廃止していく必要がある。財政としては GV 神室だけではなく、町全体の財政健全化を図っていく必要があると考える。GV に経費がかかるとすれば、別の事業で削減することになるので、ここが最も大事な点だと思うので、これを踏まえて検討いただければ。

町長

施設群の中の一つであるスキー場。町直営を別の形にできないかを並行して模索している。

星川委員が建設業組合の支部長ということで、建設事業者の皆さんに民間でできないかという相談している状況。1/19 に依頼をしており、2/7 に回答をいただく予定となっている。部分的に民間の力を借りられないか並行して取り組みを行なっていることも報告しておきたい。

斉藤委員長

それでは、後日ご意見を伺うことにしたいと思う。次回、3月ということで、議会の予定を鑑みて日程を調整したいと思う。